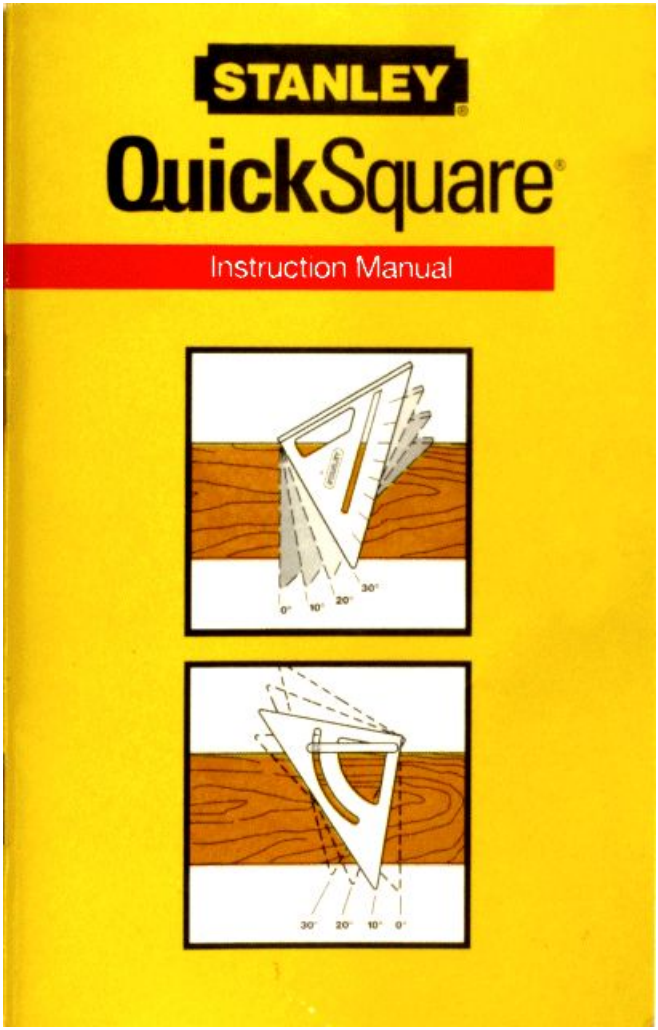
スタンレー

クイック・スクエア

使用マニュアル【日本語翻訳版】



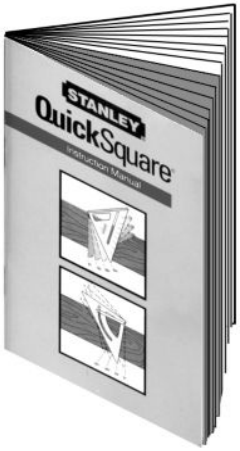
＜便利もん＋＞

＜便利もん＋＞ からのごあいさつ

ツーバイフォー建築の屋根工事の主要材「垂木」は、勾配に合わせて両端を斜めに切らなければなりません。一般に、欠き込みも必要です。

枠組み用定規(L字型の差金)を用いる方法や計算で求める方法がありますが、この定規 ″Quick Square（クイック・スクェア)″ は、本体の盤面に刻まれた勾配数字（水平1フィート＝12インチに対する垂直高さの「インチ」数字）に可動アームを合わせるだけで、斜めに切る線を正確な角度でひくことができる便利なツールです。

その他の使い方としては、アームを本体に刻まれた「角度」に合わせることで角度定規や丸鋸ガイドとして使うことができます。



翻訳個所＝濃色部分（27ページまで）

・屋根のタイプ
・用語の定義
・このツールの説明
・使用方法
　・垂直カット
　・垂木長さ
　・欠き込み
　・標準垂木　ー　事例
　・隅垂木と谷垂木　ー　事例
　・配付垂木　ー　事例
・さらなる機能と用途（分度器・丸鋸ガイド）

未翻訳＝淡色部分

・スタンレー・ポケット・スクエア
・表（垂木長さの換算表など）

以下、スタンレー社の英文マニュアルを翻訳した（翻訳個所は上記の通り）本書を原書と共にご参照いただき、ご利用下さい。
「配付垂木」などの翻訳用語は、みなさまがお使いの用語と一致しないものもあろうかと思います。ご意見をいただければ幸いです。

序　　文

この小冊子は、一般的な屋根建築に、そして、特にスタンレー・クイック・スクエアとポケット・スクエア・ツールに関係します。

この小冊子に含まれるイラストと説明は推薦される作業として提示されています、しかし、それらは決して、他の技術が有効でないか許容できないことを意味していません。

１杯のコーヒーを持って座って、リラックスして、この資料を通じて、スタンレー・スクエアの特徴に慣れ親しみ、屋根建築において用いられるいろいろな用語と定義に関するあなたの記憶を新たにして下さい。

我々は、最も一般的な屋根の形、基本用語、定義と垂木のタイプを図解することから始めます。
そのあとに続けて、クイック・スクエアとポケット・スクエアの説明とそれらが垂木のレイアウトのためにどのように使われるか ― 図解とイラスト付きの例で示します 。

そして、我々はスタンレー・スクエアに取り入れた ― 例えば、分度器スケール、インチスケール、のこぎり定規として直角部を使う方法など、さらなる特徴と用途を解説し、図解します。

小冊子の最後に、様々な間隔のための配付き垂木の長さの違いを決定するための表と共に、様々な建物の幅と屋根勾配のための実際の標準垂木、隅垂木、谷垂木の垂木長さの表があります。

目　　次

内　容	ページ
屋根のタイプ	3
用語の定義	4
スタンレー・クイック・スクエア・ツール	9
スタンレー・クイック・スクエア・ツールの使用	9
垂直カット	10
垂木長	10
欠き込み	11
標準垂木 ー 事例	12
隅垂木と谷垂木 ー 事例	13
配付垂木 ー 事例	21
さらなる機能と用途	
分度器スケール	26
インチ・スケール	27
のこぎりガイドとして	27
スタンレー・ポケット・スクエア	28
スタンレー・ポケット・スクエアの使用	29
垂直カット	29
垂木長	29
欠き込み	30
標準垂木ー事例	31
隅垂木と谷垂木ー事例	32
配付垂木ー事例	41

別の商品の説明です

内　容　　ページ

表
表1－垂木長さ　46
表2－配付垂木－間隔を取るための長さの違い　58
　－垂木長さ－フィートとインチによる建物の幅　59
表3－標準垂木の長さ　60
表4－隅垂木と谷垂木の長さ　62

換算表です。翻訳はございません。

ツールは安全メガネを着用して、ご使用下さい

(c) 1990 STANLEY TOOLS Div. of The Stanley Works
New Britain, CT 06050　U.S.A.

（注）マニュアルは 米国 STANLEY社の著作権により保護されています。この日本語版は同社の許可を得て便利もん＋によって翻訳されたものです。複写などの無断転用は禁止されております。

屋根のタイプ

屋根のタイプと形はいろいろありますが、標準的なものを以下に示します:

【片流れ屋根】
最も単純な屋根で、傾斜は一方向です。

片流れ屋根

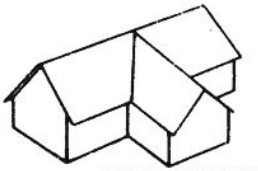
【切妻屋根】
これも単純な屋根で傾斜は2方向です。

切妻屋根

【寄せ棟屋根】
4面の傾斜面を持つ屋根です。角の垂木は角度をもって棟木に接します。

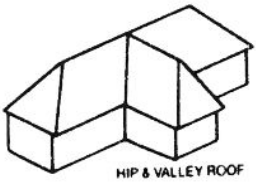
寄せ棟屋根

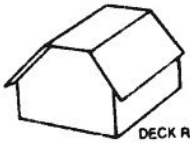
【交差屋根】
2つの切妻屋根や寄せ棟屋根の組合せです。



交差屋根

【腰折れ屋根】
垂木は上部で平面やデッキに接します。

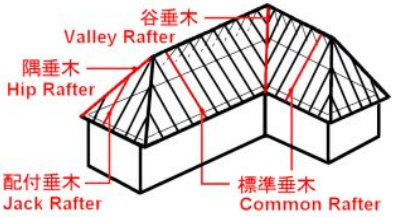




腰折れ屋根

用語の定義

【垂　木】
　屋根を支持する傾斜した構造部材。
　４種類の異なった垂木があります。
「標準垂木」「隅垂木」「谷垂木」
「配付垂木」です。



（注＜便利もん＋＞　挿入図）

「標準垂木(原文 Common Rafter)」
　プレート(壁面上端の頭つなぎ材)から棟または棟材へ伸びていて、平面図視で、プレートと棟に対して直角に位置する垂木。

「隅垂木(原文 Hip Rafter)」
　交差するプレートの外側の角から棟板へ斜めに伸びる垂木で、普通は平面図視で角度45°　です。

「谷垂木(原文 Valley Rafter)」
　交差するプレートの内側の角から、ひとつの交差している屋根の棟へ斜めに延びている垂木。
ほとんどのケースでは、平面図視でプレートに45°　の角度です。

「配付き垂木(原文 Jack Rafter)」
　プレート(壁面上端の頭つなぎ材)から棟まで届かない短い垂木のことです。
　それらは標準垂木と同じ平面にあって、プレート(壁面上端の頭つなぎ材)と隅垂木、棟と谷垂木、あるいは隅垂木と谷垂木を寄りかからせ、以下の通りに分類されます：

・配付隅垂木(原文 Hip Jack)
　平面図でプレートに正常な角度で付き、プレートから隅垂木まで届いている短い垂木。

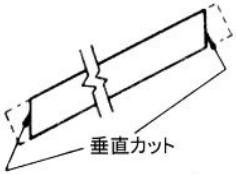
・配付谷垂木(原文 Valley Jack)
　平面図で棟に正常な角度で付き、棟から谷垂木まで及んでいる短い垂木。

・配付片垂木(原文 Cripple Jack)
　平面図で棟とプレートに正常な角度で隅垂木と谷垂木の間で伸びている垂木。配付片垂木は、棟とプレートのどちらにも接しません。

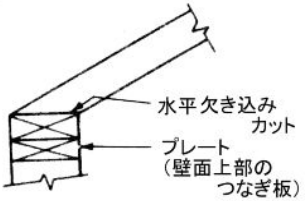
用語の定義

【カット】
　当然、全ての垂木は、きちんと、それらが使用されるスペースに適合するように、それぞれの大きさにカットされます。垂木の接続表面と屋根部材の接合面は同一面にならなければなりません、そして、屋根の形の種類と垂木の種類によって明確になり、カットの種類は正しい垂木の適合を要求されます。垂木には基本的に — 垂直カット、水平欠き込み、垂直欠き込み、片カット — の4つのカットがあります。

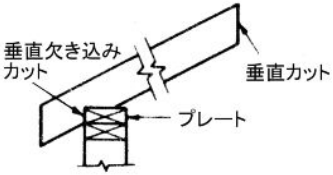
【垂直カット】
　垂木の上端と下端でおこなわれます。カットは垂木が取り付けられた状態で垂直方向になります。



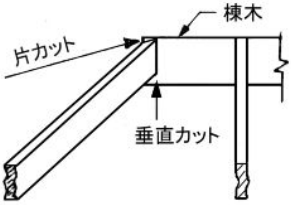
【水平欠き込みカット】
　垂木の下部でプレート（頭つなぎ＝壁面上部のつなぎ板）と平行にカットされます。



【垂直欠き込みカット】
　垂木の下部でおこなわれるカットで、垂直カットと平行になります。

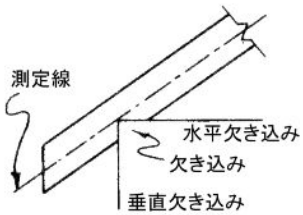


【片カット】
　棟木に（斜めに）接続する垂木か、平面図視で90°以外で接続する垂木の端部でおこなわれるカットです。隅垂木、谷垂木、配付き垂木におこなわれます。

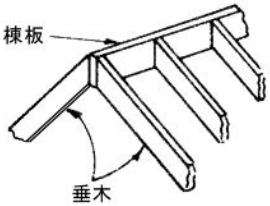


用語の定義

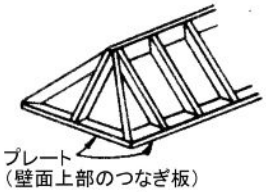
【欠き込み】
　バーズマウスと呼ばれ、垂木の下部で、水平と垂直のカットがおこなわれます。深さは垂木の測定線までです。



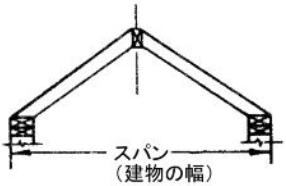
【棟木（板）】
　屋根の最上部の板です。垂木の上端が接続します。



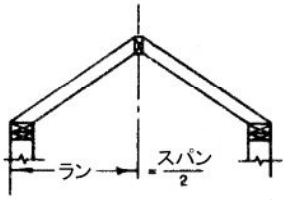
【プレート】
　外壁の上端をつなぐ板で、垂木の下部が接続します。
（＝頭つなぎ）



【スパン】
　外壁間の長さで、基本的には建物の幅です。

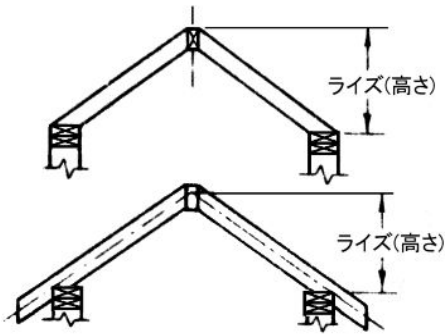


【ラ　ン】
　屋根のランは、建物の中心から外壁までの長さです。ランはスパンの半分です。片流れの屋根ではランはスパンと等しく、壁の厚さを差し引きます。

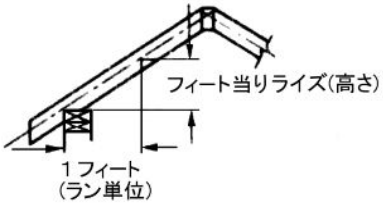


用語の定義

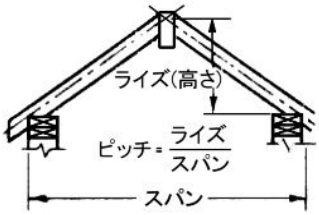
【ライズ(高さ)】
　屋根のライズは外壁上部のつなぎ板の上から、垂木の測定線（8ページの標準垂木の測定線を参照）が交差する所までの長さです。



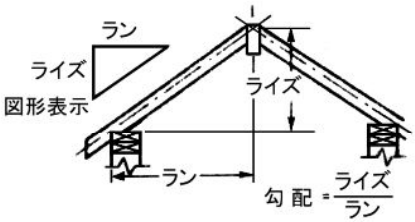
【フィート当りライズ(高さ)】
　1フィートに対する勾配の高さです。



【ピッチ】
　スパンの長さに対するライズの長さの割合です。ライズをスパンで割ります。



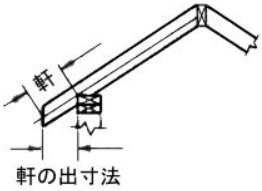
【勾　配】
　屋根の傾斜は「勾配」で表されます。建築図面では「図形表示」と呼ばれる小さな三角形が用いられます。屋根の勾配は水平12インチに対する高さのインチです。



用語の定義

【軒　先】

大部分の建物は突き出した屋根を有します、つまり、屋根は建物の外壁から外へ広がっています。この突き出しに必要な垂木の延長部は、軒（時々、尾と称します）と呼ばれています。軒の長さは垂木の長さとは別に計算されます、しかし、２つは総垂木長を得るために合計されます。



【平面図】

平面図は屋根をまっすぐ下に見下ろした図です。

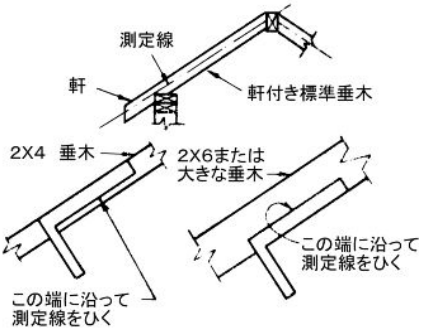
【測定線】

垂木の長さを測り、垂木の測定線上に設定します。

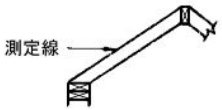
軒を有する標準垂木の測定線は上面の角と平行して、垂木の側面に沿っています。

2X4’ 材の垂木では、垂木の上面の角部に枠組み用差し金本体を面いちに合わせて、差し金本体の下端に沿って線をひいて下さい。

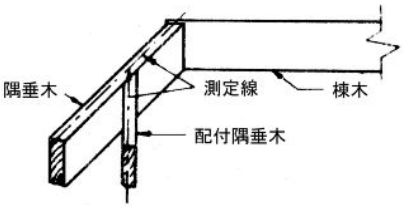
2x6’ 材か、より大きいツーバイ材の垂木では、垂木の下面の角に枠組み用差し金本体を面いちに合わせて、差し金本体の上端に沿って線をひいて下さい。



軒のない垂木では、測定線は、垂木の上端に沿っています。



隅垂木、谷垂木と配付垂木の測定線は、垂木の上面のセンターラインに沿っています。



スタンレー・クイック・スクエア・ツール

スタンレー・クイック・スクエアは、屋根建築において使われる標準垂木、隅垂木、谷垂木と配付垂木にいろいろな切断個所を示し、切断するために、速くて、精密で、反復可能なツールとしてご提供しています。

【説　明】

スタンリー・クイック・スクエアは、基本的に3つの部分からできています（図1参照）:

1）本体
2）調節アーム
3）固定ネジ

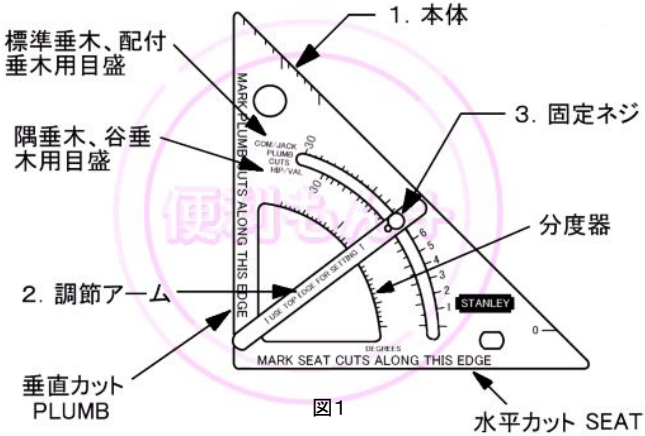


図1

1）本体

本体は、耐腐食アルミニウム・ダイカストで製造されています。

1フィートにインチ刻みによって目盛りをつけられたスケールは、さまざまな垂木のために、本体の両面に正確で丈夫に鋳込まれています。

更なる便利な機能として、インチスケールは1/8インチごとの目盛りが本体に鋳込まれていると共に、分度器スケールも、角度目盛りが鋳込まれています。

2）調節アーム

調節アームも、耐腐食アルミニウム・ダイカストで製造されています。

アームは勾配の水平方向1フィートに対する高さ方向のインチが本体に刻まれていますので、適正な角度を得るためにアームの上端面をインチ数字に合わせます。

3）固定ネジ

固定ネジ（アルミニウム製）は本体上で、必要なマーク角度で調節アームをロックするのに用いられます。

スタンレー・クイック・スクエア・ツールの使用法

【垂直カット】

ロックしているネジをゆるめ、（標準垂木、配付垂木など）垂木のタイプに合わせて、アームの上端面が水平方向の1フィートに対するインチ刻みの高さ寸法と一致するように、調節アームをセットしてください。所定の場所でアームをロックするために、固定ネジを締めてください。（図2A参照）

（注＜便利もん＋＞　ここで説明される「垂直カット」とは、建物の水平に対する「垂直」です。屋根には勾配がありますので、ツーバイ材は結果として勾配に応じて斜めにカットされます。）

垂木の一方の端で垂木の側面に垂木の底面の角に対してクイック・スクェアの調節アームの上端面を当てます。（図2B参照）

垂直カットをする端に沿って、図2Cで示すように垂木に印(MARK)をつけて下さい。

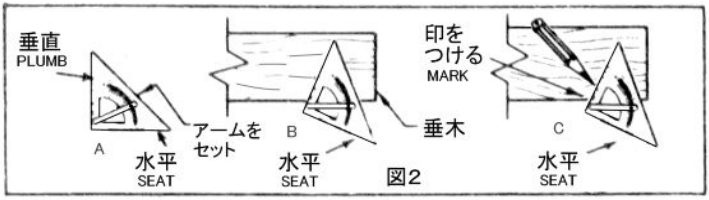


図2

【垂木の長さ】

特定の屋根ピッチと建物の幅に対する垂木（一般、隅または谷）の長さを換算表から探します。まず、建物の幅（BUILDING WIDTH）を表1（TABLES OF RAFTER LENGTH 垂木長さ換算表）の中から選んで下さい。

次に、その表の左側の欄で水平方向（斜面）の1フィートに対する高さのインチ寸法を選択し、垂木のタイプの欄の下から高さ寸法の右に示された垂木長を確認して下さい。　（注＜便利もん＋＞　垂木には勾配がありますので、長さは平面図視の建物幅よりも長くなります。勾配から計算して長さを求める方法もありますが、このマニュアルには換算表が用意されています。原書の46ページ以降をご参照下さい。）

測定線に沿って、表で確認した垂木の長さで、印をつけます。

表から得られる垂木の長さは、棟の中心までの寸法です。したがって、頂部の垂直カットを行う前に、棟材の厚みの半分は表に示された垂木長から常に差し引かれなければなりません。（図3参照）

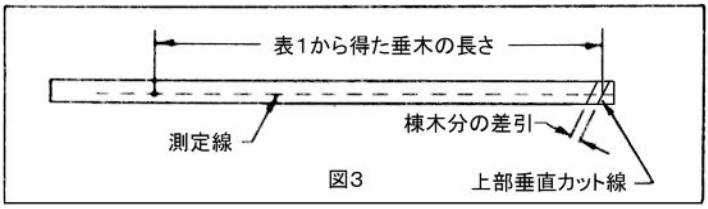


図3

棟材の半分の厚みを差し引く際は、一番上の垂直に切られた線と同じ角度で、一番上の垂直に切られた線と平行に印をつけなければなりません。

一番上の垂直に切られた線と同じ角度の線は、スタンリー・クイック・スクエアで簡単に得ることができます。

初めにセットされた調節アームの角度位置を変えることなく、調節アームの底面が垂木の底面の角に対して置きなおすように、クイック・スクエアを回転させて下さい。スクェアの、水平欠込み用(MARK SEAT CUTS)と刻印されたエッジが一番上の垂直カットの線に重なるようにずらし、スクエアの角に沿って垂木に線をひいて下さい。(図4参照)

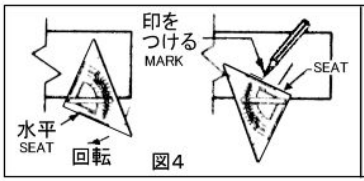


図4

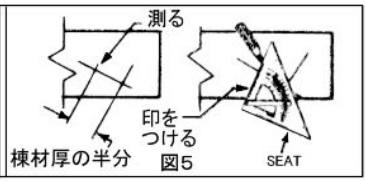


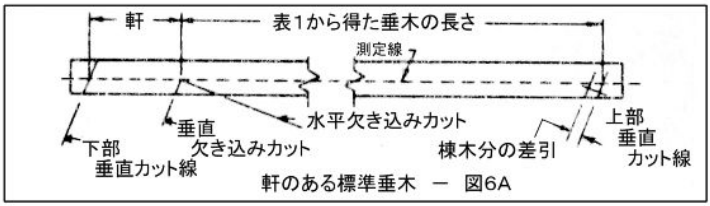
図5

この線に沿って、一番上の垂直カット線から、棟材の厚みの半分を計って、印を付けて下さい。次に、スクエアを初めの位置に回転させて、垂直カット(MARK PLUMB CUTS)と刻印されたエッジが、今つけた印の上に位置するように、スクエアを置き直して下さい。調節アームの上面が垂木の底面に対してぴったりと沿っていることをご確認下さい。垂直カット(MARK PLUMB CUTS)と刻印されたエッジに沿って、線をひいて下さい。(図5参照)

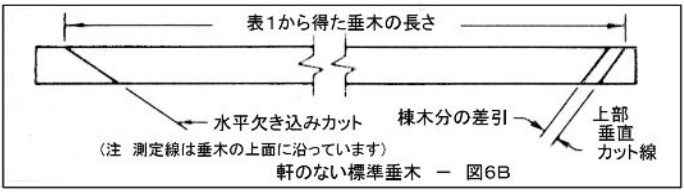
【水平欠き込みカット】

水平欠き込みカットは、元の上部垂直カット線から離れて測定線と交差する個所で、下部垂直欠込みカットに対して直角であり、(換算表の)垂木長さに一致する個所に設けられます。

水平欠き込みカットを設けるために、再び、調節アームの下端が垂木の底面角部に当るように、スクエアを回転させて下さい。水平欠き込みカット(MARK SEAT CUTS)と刻印されたエッジが測定線のところで垂直欠込みカットと一致するように、スクエアを置いて下さい。下部垂直欠込みカット線から、垂木の下端まで、欠込みの水平線をひきます。(図6Aと6Bを参照)



軒のある標準垂木 ― 図6A



軒のない標準垂木 － 図6B

この節の前半の段落では、垂木の長さを決定して、水平欠込みカット、垂直欠込みカットをするためにクイック・スクエアを使う方法を述べたもので、一般的な説明でした。それでは、特定の建物の幅と屋根勾配の場合に、標準垂木、隅垂木、谷垂木と配付き垂木を配置して、それらを切断する実際の例をみてみましょう。この屋根は、突出部もあります。

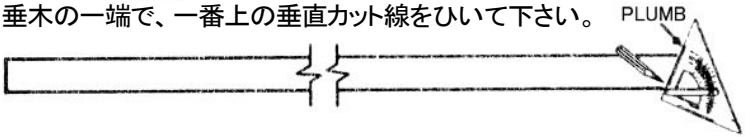
【建築仕様（事例）】

幅 20フィート
勾配 ..... 水平1フィートにつき、上り9インチ
棟 ..... 2 x 8 (実際の厚みは、1-1/2インチ)
軒長さ 2フィート
垂木間隔 ..... 中心間　16インチ
垂木材 ..... 2 x 6
プレート材 ..... 2 x 6

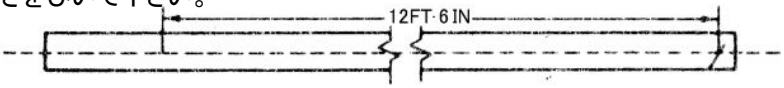
【標準垂木】

1) クイック・スクエアのCOM/JACK の目盛りの '9'（8と10の間）に、アームの上端面を合わせて固定して下さい。

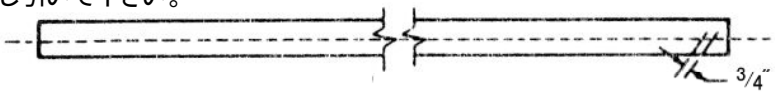
2) 垂木の一端で、一番上の垂直カット線をひいて下さい。



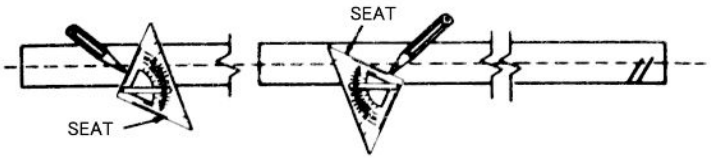
3) 表1から垂木の長さ（12フィート6インチ）を見つけて、測定線上にこの長さをひいて下さい。



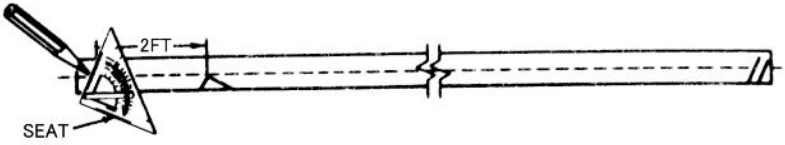
4) 棟材の厚みの1/2（この場合3/4インチ）を一番上の垂直カット線から差し引いて下さい。



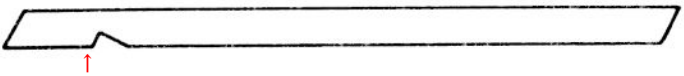
5）垂直欠込みカット（底部垂直カット線）と水平欠込み線をひきます。



6）軒の長さの分として、垂直欠込み線から測定線に沿って2フィートを加えて、底部垂直カット線をひいて下さい。



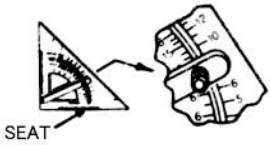
7）ここで切られた垂木は、残りの標準垂木を線びきするためのテンプレート（定規）として使うことも可能です。



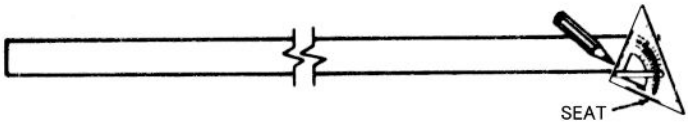
（注＜便利もん＋＞　外壁合板用の欠き込みは、ここでは触れられていません。）

【隅垂木と谷垂木】

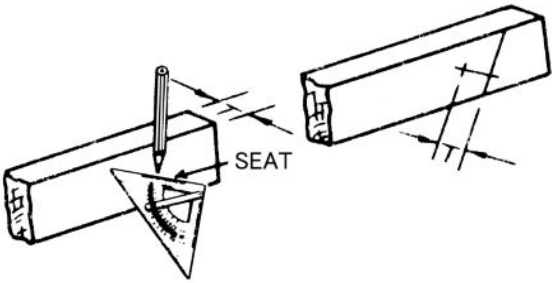
1）クイック・スクエアのHIP/VAL. の目盛りの '9'（8と10の間）に、アームの上端面を合わせて固定して下さい。



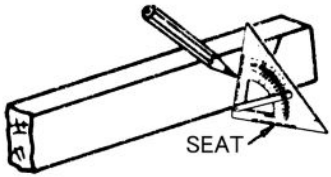
2）垂木の一端に上部垂直カットの線をひいて下さい。



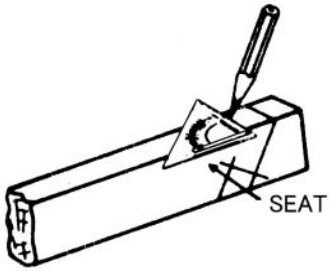
3）クイック・スクエアを回転させて、上部垂直カット線と直角をなす線をひいて下さい。垂木の厚みを計って、この線に沿って印をつけて下さい。



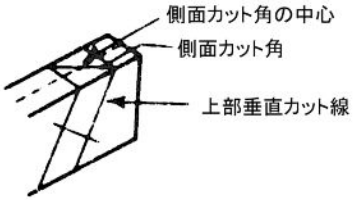
4）この個所に、第2の垂直カット線をひいて下さい。



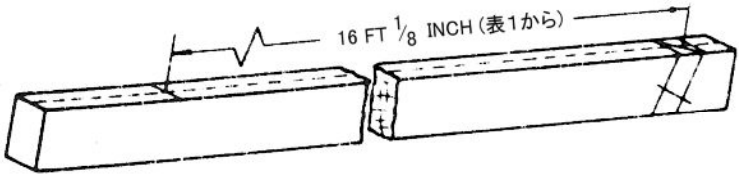
5）アームをクイック・スクエアの0度に位置させて、2つの垂直カット線を垂木の上面へ、直角に延してください。



6）正しい側面カット角を得るために、2つの直角の線の反対側の端を結んでください。側面カット角を持つ垂木は、隅垂木と谷垂木に必要であることにご注意下さい。

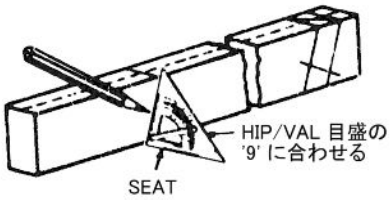


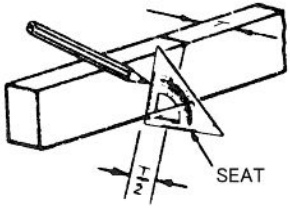
7）表1から得られる垂木長さを、側面カット角の中心から測り、測定線上にひいて下さい。我々が隅垂木、谷垂木と配付き垂木の測定線は、垂木の上端の中心線に沿っていると定義したことを思い出して下さい。



8）垂木の上面を横切るように垂木の長さを直角にひき、垂木の側面に底部垂直カット線をひいて下さい。

あなたが谷垂木を作っているのでしたら、今ひいた垂直線に垂木の厚みの1/2を加えて第2の垂直線をひいて下さい。これは、交差している頭つなぎプレートにフィットする谷垂木の垂直欠込みに合わせてひかれる線です。





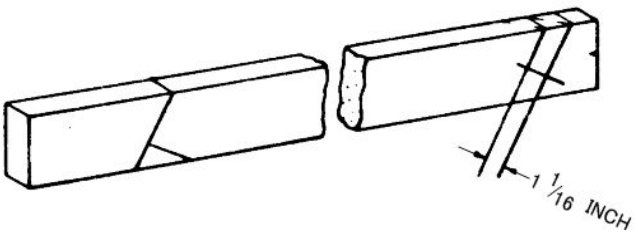
9）標準垂木から垂直欠込みの深さを測り、水平カット線をひきます。（勾配はHIP/VAL 目盛りの、'9'に合わせる）

10）さて、棟材の厚みの差引きは、表1から得られる垂木長さから引かれなければなりません。平面図で、隅垂木と谷垂木は棟に対して45度で位置するので、棟材の厚みは45度の対角線で計らなければなりません。
　45度でアームをセットして、ロックしてください。棟材の上面を横切るように、45度線を描いてください。線の長さを計って、2で割って下さい。（この例では、線は長さ2-1/8インチ---　2で割って = 1-1/16インチになります）

11）ステップ3）で配置された直角ラインに沿って、最初のトップ垂直カット線から、1-1/16インチを計って印をつけて、この印の個所でもう一つの上部垂直カット線をひいて下さい。

12）この上部垂直カット線の上から、ステップ6）でひかれた側面カット線と平行してもう一つの側面カット線をひきます。
これらの最後の上部垂直カット線と側面カット線は、垂木の端が棟材に対して同一面にフィットするように切られる角度を定めます。

　もし携帯用の電気丸鋸が、鋸の底板に45度の角度に刃を傾けることによって垂木のこの端を切るのに用いられ、上部垂直カット線に沿ってカットするのなら、よい結果は正しい側面カット角度によるという点にご注意下さい！
必要とする側面カットに結びつく、刃の角度の傾きが正しい方向であることを確かめるため、どのような場合でも、垂木の上部に側面カット角度を書いておくのがベストです！



13) 我々は、軒を収容するために垂木の長さに加えられるべき長さを考慮しなければなりません。我々は、比率によってこれを計算します。 最初に、このピッチの屋根のために標準垂木および隅垂木/谷垂木の長さを測定してください。我々の例では、垂木長さは、12' 6″ です。隅垂木の長さは、16' 1/8″ です。 標準垂木の長さへの隅垂木長さの比率は(一旦、小数点付きのインチに換算して):

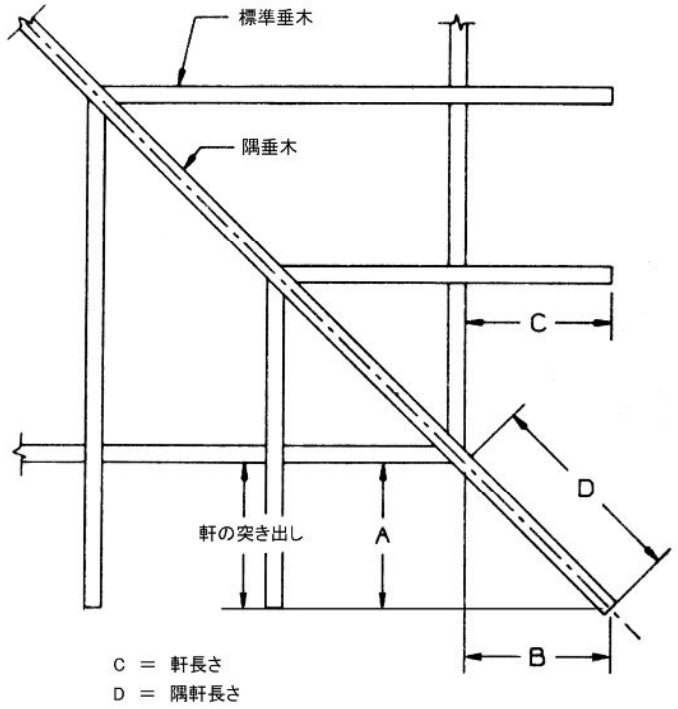
$$\frac{16'\ 1/8''}{12'\ 6''} = \frac{(16 \times 12)+.125}{(12 \times 12)+6} = \frac{192.125}{150} = 1.28$$

この比率は標準垂木の軒長さによって、隅垂木または谷垂木の軒長さを割ったものです:

$$\frac{D}{C} = 1.28$$

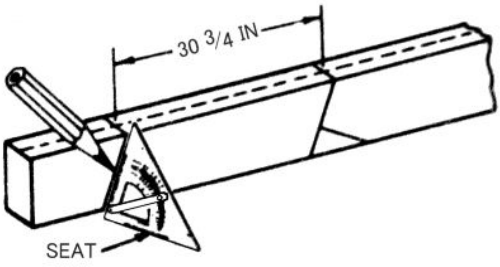
Dは隅垂木または谷垂木の軒の長さです、そして、下の図で示すように、Cは標準垂木の軒の長さです。ここの事例の場合では:

$$\frac{D}{24''} = 1.28 \quad \text{から} \quad D = 24'' \times 1.28 = 30.72''$$



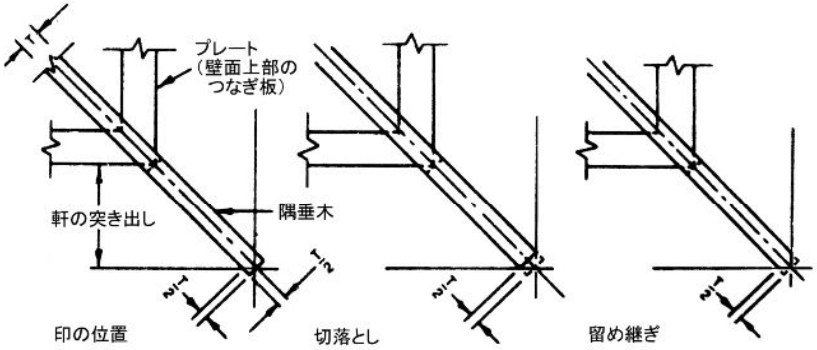
14）下部垂直カット線で垂木の上面を横切る直角の線から、30−3/4インチ（軒の長さ）計って、印を付けて下さい。 垂木の上面を横切るこの線を直角にして、この直角線から垂木の側面にもう一つの下部垂直カット線をひいて下さい。

（注＜便利もん＋＞ 下部垂直カット線は軒先側のカット線です。垂木の別の端には、上部垂直カット線がひかれています。）



15）隅垂木と谷垂木の長さは垂木の上面のセンターラインに沿って測られるので、あなたは軒の下端の角が標準垂木の端と同じ平面にないことに気づくでしょう。

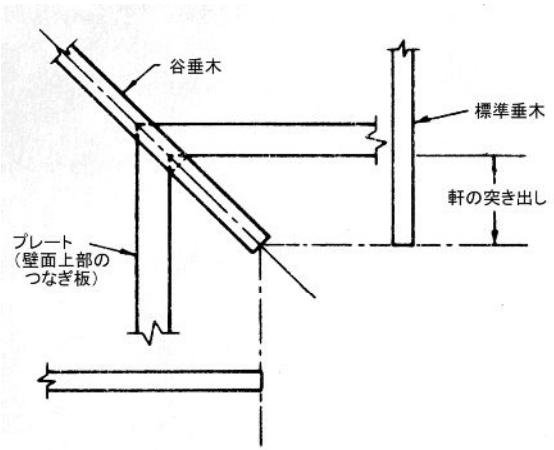
下の平面図で例示されるように、切取り長さまたは留め継ぎ(斜めに継ぐ角部)のための調整寸法は隅垂木の厚み(T)の半分です。



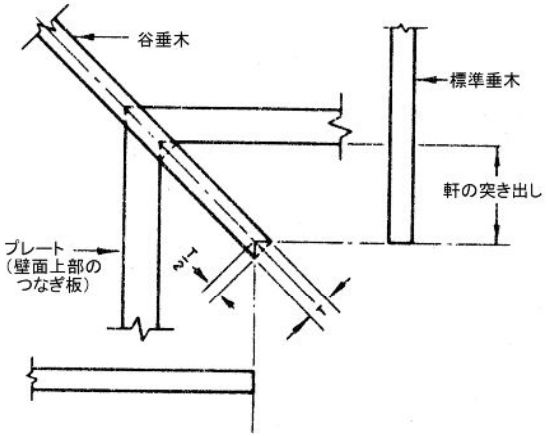
一部の工事業者は、標準垂木の端から墨壷で印をつけて隅垂木が所定の場所に置かれた後で軒を切ることを好みます。切取りは墨壷でつけた印からひかれたか、あるいは、上記の計算された長さでひかれた垂直線に沿って、底板に90度でセットされた携帯用電気丸鋸の刃でおこなわれます。

留め継ぎカットは、底板に45度で設定される携帯用電気丸鋸の刃で、垂直線に沿っておこなわれます。

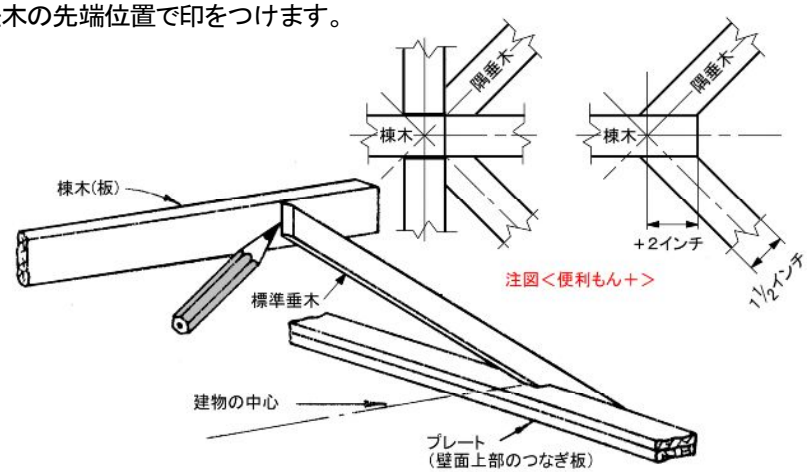
16）谷垂木の場合、下記の平面図で示すように、軒を（垂木の上面に沿って）計った長さが、標準垂木の端と同じ平面にありますから、垂木の端を短くするか、留め継ぎにする必要はありません！



努力を惜しまない人々なら、鼻隠し板をより良い表面仕上げで固定するために、垂木の底部に90度ノッチを作ることができます。この場合、次に図示するように、谷垂木の半分の厚みを垂木の長さに加えなければなりません。垂直線をこの個所で垂木の側面に再び引きます、そして、携帯用電気丸鋸を用いて、刃を適当な深さで45度にセットして、カットは垂木の両側の垂直線に沿っておこなわれます。



17）寄せ棟屋根を造るとき、棟木は端部で必要な長さよりおよそ１フィート長くしなければなりません。それから、必要な寸法に切られた標準垂木が壁面上板の中央に置かれます、そして、上端は棟木に沿わせます。棟木に標準垂木の先端位置で印をつけます。

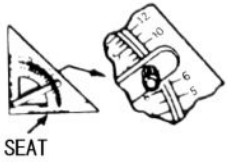


棟方向の中心用標準棟垂木を使う場合は、棟木はこのマークの長さで切ります、そして、左右2本の隅垂木は標準棟垂木の上端で固定します。

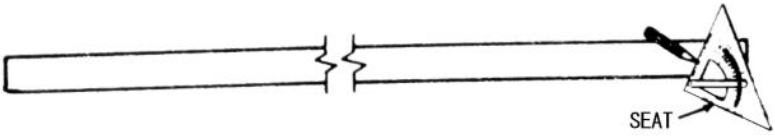
棟方向の中心用標準棟垂木を使わない場合は、棟木の今つけた印から、棟板の長さに2インチ加えて、この点で棟板をカットして下さい。

（注＜便利もん＋＞　標準棟垂木を使わない場合、注図の右に示すように左右の2本の隅垂木は、ここで伸ばした棟木の先端両側に固定します。）

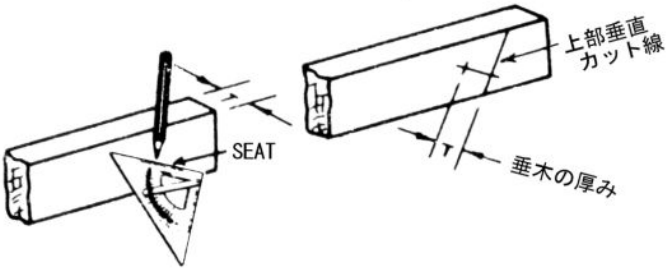
【配付垂木】
配付垂木は標準垂木と同じ平面に置かれ、標準垂木と同じフィートラン当りインチライズの勾配となります。
1）クイック・スクエアの調整アームをCOM/JACK目盛りの必要な角度に合わせますーこの事例では、標準垂木で用いられた '9' になります。



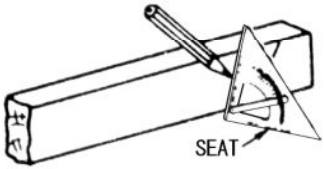
2）垂木の端に垂直カット線をひきます。



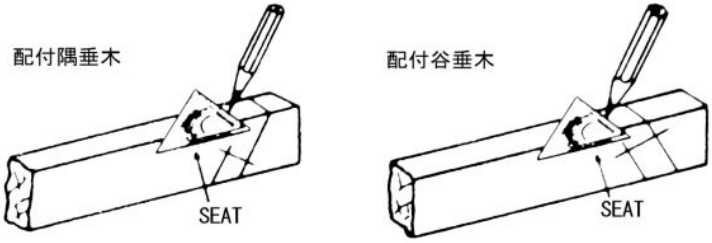
3）クイック・スクエアを回して、垂直カット線に90° の線をひきます。この線に沿って垂木の厚さを測って線をひきます。



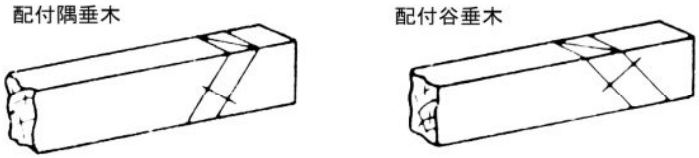
4）この個所で二つ目の垂直カット線をひきます。



5）垂直線の上に垂木の上面を横切るように合わせます。配付谷垂木の場合は、垂木の上面は垂直線の短い側になることにご注意下さい－配付隅垂木の反対になります。



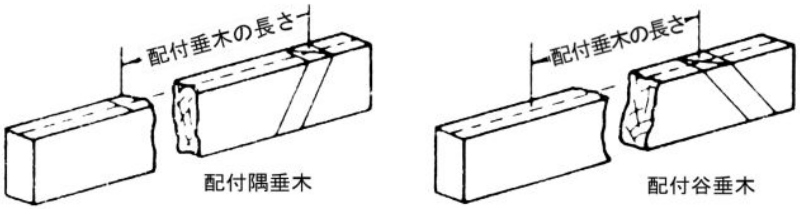
6）側面カットをする部分に応じて、四角な線の端と端を結びます。



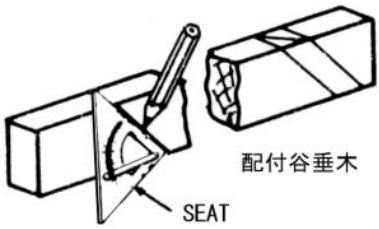
7）表2の〝Difference in Length of Jack Raftere for Various Spacing〟(さまざまな垂木間隔の配付垂木の長さの差)から、16インチ間隔における、1フィートランにつき9インチライズのその長さが1フィート8インチとわかります。これはまた、配付隅垂木、配付谷垂木の最初の最も短いものの長さでもあります。次につづく配付垂木は1フィート8インチづつ長くなります。

8）測定線（垂木の上面の中心線）に沿って、ステップ6）で線をひいた側面カット線から、垂木の長さを測り線を引きます。最初の垂木は長さ1フィート8インチで、2番目の垂木は長さ3フィート4インチ（1フィート8インチを2倍します）、3番目の垂木は5フィート0インチ（1フィート8インチを3倍します）、のようになります。

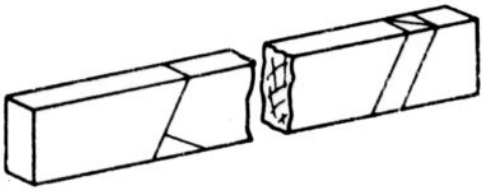
（注＜便利もん＋＞　1フィートは12インチですので、12インチでフィートに位が上ります。）



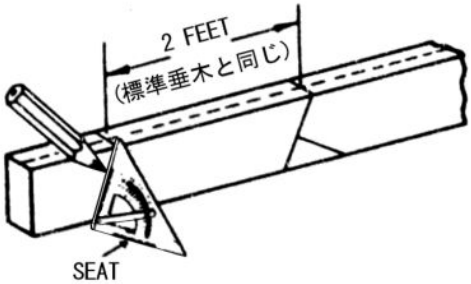
9）上面に線を引いた「長さ」から、垂木の側面に垂直カット線をひきます。
10）配付谷垂木の場合、棟木に対して適合するために、この線に平行にカットされます。配付谷垂木のこの垂直線は垂木の反対側の端の垂直線と同じ方向にあることをお確かめ下さい。平行です！



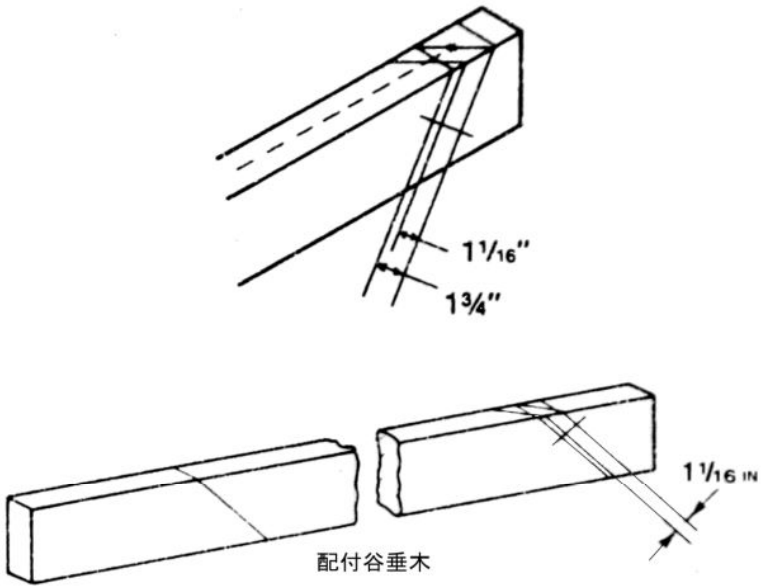
11）配付隅垂木の場合、定規として標準垂木を使います。そして、下部垂直カット線の所で垂直欠込みカット、水平欠込みカット線をひきます。使える標準垂木がない場合は、11ページの垂直、水平欠込みカット線をご参照下さい。



12）再び配付隅垂木において、軒の延長長さを標準垂木と同様に設けて下さい。手に入れば標準垂木を定規として使います。

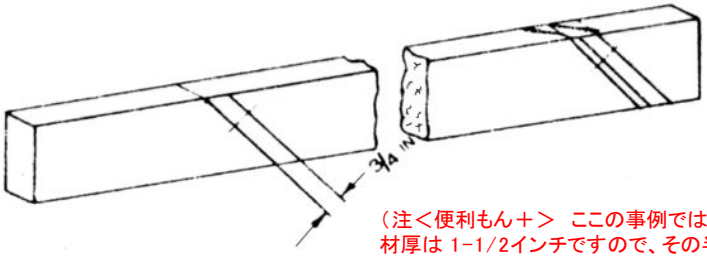


13）隅と谷垂木が棟木の厚さに対して調整されたように、配付垂木の長さにおいては、隅または谷垂木の厚さ分が調整されます。COM/JACK 目盛りが9'にセットされたクイック・スクエアで、ステップ2）で側面にひいた元の垂直カット線から1-1/16インチの個所に別の垂直カット線をひきます。（1-1/16インチは隅または谷垂木の厚さの半分です）

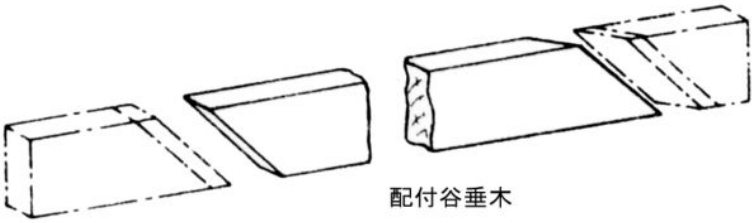


14）この垂直線の上面から垂木の上面を横切る線をステップ6）でひいた側面カット線に平行に線をひきます。これらの最後の側面カット線と垂直カット線が垂木を切る線となります。刃を45°に設定した丸鋸でこの垂直カット線に沿って切ると正しい正しい側面切断角度になります。

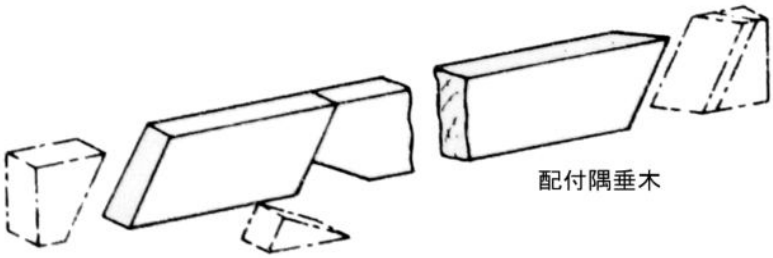
15）配付谷垂木はその長さが、垂木が接する棟材の厚さ分調整されてさらに短くなります。標準垂木を短くしたのと同じ方法です。（10ページの垂木長さを参照）



（注＜便利もん＋＞　ここの事例では、棟材厚は 1-1/2インチですので、その半分が3/4インチとなります。）



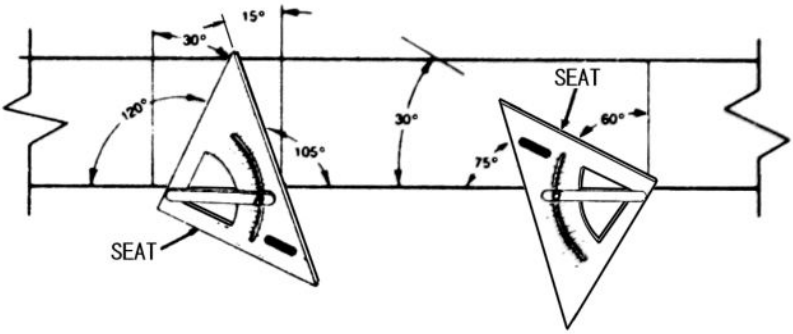
配付谷垂木



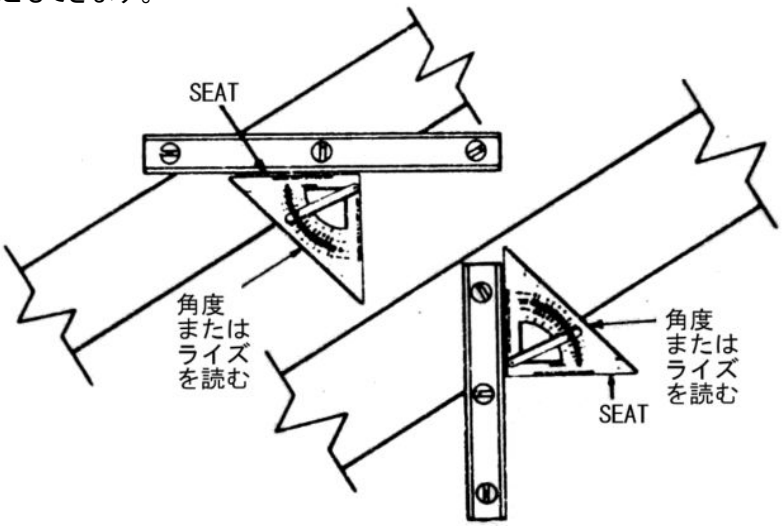
配付隅垂木

その他の特徴と用途

【分度器スケール】
クイックマスターはアジャストできる分度器として大変手軽に使える角度目盛りのスケールが刻印されています！　スケールは両面が使えるようになっています。下の図はアームが30°にセットされた状態を示しています。



水準器と共に使いますと、下図のように、クイック・スクエアーは用材の角度やすでにある屋根や垂木の角度を測ったり、必要な角度に調整したりすることもできます。



インチ・スケール

クイック・スクエアーの一面には1/8インチごとの目盛りが刻まれています。

調節アームを0°にセットすると、クイック･スクエアーは通常の三角定規として板材の端から直角線を引くことができます。スケールはアームが（0）にセットされた時にのみ使用できます。スケールがゼロのアームと他へのアームのセットでは一致ません！　しかしながら、スケールは正確なものですから通常のスケールとして使用し、目視で対象物の端で線を引くことも可能です。

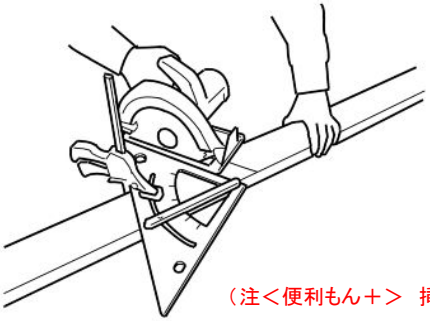
次のスタンレー・ポケット・スクエアーは6-3/4インチのスケールで、両面に1/8インチの目盛りがあります。通常のスケールとして測定や目視で対象物の端に「PIVOT」ポイントを合わせて線を引きます。

（注＜便利もん＋＞　この次の説明部分「ポケット・スクエアー」はアームのない別の製品で、使用法が異なりますので、翻訳しておりません。）

のこぎりガイドとして

スタンレー･スクエアーは垂木用の定規ツールとして使える他に、丸鋸ガイドとしても使うことができます。

必要な角度に一度セットすると、垂木を所定の角度で切断することができます。スクエアーが材木の角にしっかりと当てがわれていることをお確かめ下さい。



（注＜便利もん＋＞　挿入図）